

2007年 9月 26日

各 位

会社名 株式会社キョーリン
本店所在地 東京都千代田区神田駿河台 2-5
代表者名 代表取締役社長 荻原 郁夫
(コード番号 4569 東証一部)
問合せ先 取締役経営戦略室長 穂川 稔
(TEL. 03-3293-3414)

会社名 株式会社日清製粉グループ本社
本店所在地 東京都千代田区神田錦町 1-25
代表者名 代表取締役社長 長谷川 浩嗣
(コード番号 2002 東証一部、大証一部)
問合せ先 総務本部広報部長 稲垣 泉
(TEL. 03-5282-6650)

杏林製薬株式会社と日清キョーリン製薬株式会社の合併に関するお知らせ

(株)キョーリンと(株)日清製粉グループ本社及び、各々の100%子会社である杏林製薬(株)と日清ファルマ(株)は、2007年9月26日開催の取締役会において、杏林製薬(株)及び(株)日清製粉グループ本社、日清ファルマ(株)の合弁会社である日清キョーリン製薬(株)による合弁事業を解消し、2008年10月1日付けで、杏林製薬(株)が日清キョーリン製薬(株)を吸収合併することを決議いたしました。

記

1. 合併の背景及び目的

日清キョーリン製薬(株)は、1996年4月に杏林製薬(株)^{注1}と日清製粉(株)^{注2}による合弁会社として設立、合弁事業を開始し11年間が経過いたしました。この間、医薬品の研究開発力の充実・スピードアップ並びに販売力の強化に努め、主要製品である潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペントサ」を中心に順調に売上を拡大し、その結果、2007年3月期の業績は売上高130億円、経常利益13億円となりました。

しかしながら、医療費・薬剤費の抑制策として医療制度の改革が継続的に実施される中、高騰する研究開発費を負担し競合が激化する医療業界で勝ち残るためにはある程度の事業規模の拡大と事業基盤の強化は欠かせない状況と認識しております。

こうした状況を踏まえ、日清キョーリン製薬(株)が単独で事業を進めるよりも、杏林製薬(株)と事業を一体化することで、医療用医薬品の研究開発力及び販売力の強化を通じて、企業価値の向上を目指すことが長期的視点から最善の選択と判断し、杏林製薬(株)と(株)日清製粉グループ本社及び日清ファルマ(株)はこの度、合弁事業を解消し杏林製薬(株)が日清キョーリン製薬(株)を吸収合併することを決定いたしました。

株キョーリンは、今後とも経営資源の効率的な配分や運用を行うことで、キョーリングroup全体の総合力を発揮し、連結業績の向上に努めてまいります。

注1) 2006年3月に持株会社制に移行し、(株)キョーリンの100%子会社となる

注2) 2001年7月に持株会社制に移行し、(株)日清製粉グループ本社に商号を変更するとともに、医薬事業を100%子会社の日清ファルマ(株)として分社

2. 合併の要旨

(1) 合併の日程

合併基本合意承認取締役会	2007年9月26日
合併契約の締結	2008年8月(予定)
合併期日	2008年10月1日(予定)
合併登記	2008年10月1日(予定)

(2) 合併の方式

杏林製薬(株)を存続会社とする簡易合併による吸収合併方式で、日清キョーリン製薬(株)は解散いたします。

(3) 合併対価

合併による新株式の発行もしくは自己株式の割当交付はせず、金銭を対価として交付しますが、金銭の額は現時点では未定です。

(4) 合併対価としての金銭の額の算定根拠等

2008年6月末時点の貸借対照表に基づき、将来価値を含めた時価純資産の算定を基準として、両社協議の上で合併対価としての金銭の額を算定いたします。

3. 合併により期待される効果

杏林製薬(株)は日清キョーリン製薬(株)の吸収合併により以下の合併効果を期待しております。

(1) 国内医薬品事業の強化

① 効率的な営業活動

主要製品である「ペンタサ」事業を一本化することにより効率的な営業活動を展開することが可能となります。また、MR750名体制を確立し営業力の強化を図ることにより、売上高1,000億円の特長ある製薬企業を視野に入れることが出来ます。

② 研究開発活動の拡充

研究領域に下部消化器領域が加わることで、創薬シーズの拡充や開発パイプラインを充実することが可能となります。

(2) 効率経営の実現

本社、営業、研究、生産などの事業拠点の集約や事業費用の最適化を図り効率経営を実現します。

(3) 人材の充実と強化

キョーリングroupの事業拡大に必要な人材面での充実が図られ組織的適応力が強化されます。

4. 合併当事会社の概要

(1) 商号	杏林製薬株式会社 (存続会社)	日清キョーリン製薬株式会社 (被合併会社)
(2) 主な事業内容	医薬品の製造・販売・仕入及びこれらに関連するヘルスケア事業全般	医薬品の製造、販売及び受託研究
(3) 設立年月日	1940年12月4日	1996年4月1日
(4) 代表者	代表取締役 荻原 郁夫	代表取締役社長 松田 孝
(5) 本店所在地	東京都千代田区	東京都千代田区
(6) 資本金	4,317百万円 (2007年3月31日現在)	300百万円 (2007年3月31日現在)
(7) 発行済株式数	74,268,150株 (2007年3月31日現在)	320,000株 (2007年3月31日現在)
(8) 純資産	86,797百万円 (2007年3月31日現在)	4,472百万円 (2007年3月31日現在)
(9) 総資産	106,042百万円 (2007年3月31日現在)	8,047百万円 (2007年3月31日現在)
(10) 決算期	3月31日	3月31日
(11) 従業員数	1,488人 (2007年3月31日現在)	274人 (2007年3月31日現在)
(12) 主要取引先	(株)スズケン アルフレッサ(株) (株)メディセオ・パルタックホールディングス 東邦薬品 等	杏林製薬(株) アルフレッサ(株) (株)メディセオ・パルタックホールディングス 等
(13) 大株主および持株比率	(株)キョーリン 100.0% (2007年3月31日現在)	杏林製薬(株) 50.0% 日清ファルマ(株) 40.0% (株)日清製粉グループ本社 10.0% (2007年3月31日現在)
(14) 主要取引銀行	みずほ銀行	三井住友銀行

(15) 当事会社間の関係

資本的関係	杏林製薬(株)は日清キョーリン製薬(株)の株式を50%保有しております
人的関係	杏林製薬(株)の取締役1名が日清キョーリン製薬(株)の取締役を兼務しており、また杏林製薬(株)から日清キョーリン製薬(株)へ従業員25人を出向させております
取引関係	杏林製薬(株)は日清キョーリン製薬(株)への製品の販売及び製品の仕入れを行っております

2007年3月31日現在

(16) 最近3決算期の業績

(単位：百万円)

決 算 期	杏林製薬株式会社 (個別)			日清キョーリン製薬株式会社 (個別)		
	2005年 3月期	2006年 3月期	2007年 3月期	2005年 3月期	2006年 3月期	2007年 3月期
売 上 高	64,938	67,357	66,052	12,112	12,577	13,050
営 業 利 益	5,911	8,773	7,613	988	1,114	1,365
経 常 利 益	5,723	8,377	7,615	919	1,093	1,370
当 期 純 利 益	1,615	4,771	4,697	597	688	858
1株当たり当期純利益	21.19円	63.64円	63.25円	1,865.76	2,152.44	2,684.34
1株当たり配当金	18.00円	39.00円	30.00円	0円	650.00円	0円
1株当たり株主資本	1,195.26円	1,245.22円	1168.71円	9,697.91円	11,912.53円	13,975.01円

5. 合併後の状況

- (1) 商号 杏林製薬株式会社
- (2) 事業内容 医薬品の製造・販売・仕入及びこれらに関連するヘルスケア事業全般
- (3) 本店所在地 東京都千代田区神田駿河台二丁目5番地
- (4) 代表者 代表取締役社長 荻原 郁夫
- (5) 資本金 4,317百万円
- (6) 業績に与える影響について

合併は2008年10月1日(予定)であり、2008年3月期の(株)キョーリン及び、(株)日清製粉グループ本社の連結業績に与える影響はありません。2008年度以降の業績見通しにつきましては、順次開示いたします。

以上